

団体紹介

会長 渋谷 福三

寄に伝わる祭囃子の保存、後継者の育成を目的として、古くから各地域で活動していた4つの保存会が昭和51年に神奈川県民俗芸能大会に特別参加したことを契機に連合体となり「寄祭囃子保存会」が結成されました。

◎ 寄社例大祭に おける活動

毎年3月の第一土曜日に執り行われる寄神社の例大祭では、「寄祭囃子保存会」が大きな花傘を飾った4つの山車で祭囃子を演奏するとともに、神輿が各地域を回る時に立ち寄る休憩所でも演奏します。

また、神輿が神社に戻ってきた後には、神社に奉納する「祝儀」を2曲演奏します。この「祝儀」は4つの保存会が順番に演奏しますが、山車の周りには他の保存会員が大勢取り巻き耳を澄まして聞いているので聞



花傘を飾った山車

変わらないよう特訓を重ね臨みます。「祝儀」演奏の際のあいさつ回りでは、お神酒を振る舞うという独特の作法があり伝統になっています。

◎ 未来へつなげる祭囃子

活動は寄神社の例大祭だけではなく、若葉まつりや産業観光まつり、町文化祭、やどりき水源林の集いなどのイベントにも参加していますが、若い後継者が少ないことが課題となっています。地域の伝統文化に興味のある方、一緒に活動し未来につなげませんか。

松田 文化財探訪

松田の関東大震災 その10

文化財保護委員 桐生 海正

人絹工場の火災

神山方面における被害の中でも特筆すべきは、上茶屋にあった人造絹糸製造所(以下、人絹工場)の火災でしょう。先月号で紹介した「大震災の想い出集」にも火災の話がいくつか出てきます。秦野の千村で被災した方の話では、人絹工場が火事だと近隣の方から聞き、頭向山のはるか遠くから黒い煙がもくもくと出ているのを見たといいます。「神奈川県下の大震災と警察」という本にも人絹工場についての記載があります。同書によれば、震災で工場は倒潰し、機械室内にあった研究室のアルコールランプから発火し、全焼したとのことでした。近隣では県立農林学校(現吉田島高校)でも理化学室の薬品から発火し、火災に見舞われています。そもそも人絹とは、人工的に作った絹糸のような糸で、現在の「レーヨン」にあたります。上茶屋にあった人絹工場は、元治元(一八六四)年に東京浅草で糸商を始めた町田徳之助の流れをくむ工場です。二代目徳之助が日本人およびドイツ人技師を招き、ドイツより買入れた機械を配備して、大正二〇(一九二一)年によく完成したものでした(以上、町田糸店HPより)。しかし、工場は、二年後の震災であえなく倒潰してしまいました。その後、工場は静岡県富士郡吉原町に再建されたそうです。なお、現在も会社は町田糸店として存続しています。



二代目町田徳之助
(出典:『会員写真帖』国立国会図書館所蔵、デジタルコレクションを利用)